

Q12 :

利用している関係機関がない場合、個別の教育支援計画をどのように作成しますか？

A :

子どもは学校生活だけでなく、家族や地域の人々の関わりの中で生活しています。保護者も支援者の一人と捉え、学校と家庭や地域での子どもの様子について情報共有し個別の教育支援計画を作成する必要があります。また、「関係者」を「関わっている人」と捉えると、実際には多くの人が関わっていると思います。例えば、習い事の先生や地域の子ども会の人、放課後児童クラブの指導員などがあります。その中から、支援会議に参加してもらいたい人を保護者と一緒に整理し、作成に携わってもらいます。

Q13 :

個別の教育支援計画と個別の指導計画の目標はどのように関連付けるとよいのですか？

A :

個別の教育支援計画の目標は、長期的な視点で3年程度先の姿を想定（あるいは修了や卒業の時点を想定）して作成します。また、家庭や地域も含めた生活全般を通した目標となります。個別の指導計画では、個別の教育支援計画の目標を達成するために、学校で取り組む内容を検討して目標とします。1年間を長期目標として、各学期、あるいは前期後期を短期目標として設定します。個別の教育支援計画、個別の指導計画の長期目標、短期目標がつながるように作成することが大切です。

以下のページ（P34～37）に、個別の教育支援計画と個別の指導計画それぞれの目標を関連付ける例を示しておりますので参考にしてください。

<例1> 集団生活面で課題のある幼稚園年中幼児

個別の教育支援計画

実態

- ・ 自分で身支度ができず、大人の手助けが必要である。
- ・ 遊具や水遊びが好きで、長時間遊び続ける。
- ・ 一人遊びが多いが、興味のある遊びの場合は周りの友達が遊んでいる様子を見ることもある。

願い

本人

・ 幼稚園で楽しく過ごしたい。

保護者

・ 落ち着いて生活を送れるようになってほしい。
・ 友達と一緒に小学校に入学してほしい。

関係者

・ 友達や先生と関わって遊べるようになってほしい。

個別の教育支援計画の目標設定
★ 願いや本児の実態を基に、優先順位を考えて設定した。

目標

① 毎日の生活のリズムを整えて過ごす。

② 友達と一緒に、発表会などの行事に参加する。

個別の指導計画

★ 園で取り組むべき内容を考えて設定した。

長期目標

① 登園後の朝の支度を一人で行う。

② 自分の興味のある遊びを友達と関わりながら行う。

短期目標1
(1学期)

① 登園後の朝の支度を担任と一緒にやる。

② 自分の興味のある遊びや活動を担任や身近な教師と一緒にやる。

短期目標2
(2学期)

① 登園後の朝の支度を担任と一緒に確認表を見ながらやる。

② 担任や身近な教師の促しにより、友達と一緒に遊びや活動を行う。

短期目標3
(3学期)

① 登園後の朝の支度を一人で行う。

② 自分の興味のある遊びを、友達と関わりながら行う。

<例2> 学習面で困難さのある小2男児

個別の教育支援計画

実態

- ・ 図工が好きで、じっくり時間を掛けて活動に取り組んでいる。
- ・ 算数の計算は得意であるが、文章問題は苦手である。
- ・ 漢字を読むことが苦手である。

願い

本人

・ 上手に本が読めるようになりたい。

保護者

・ 宿題を嫌がらずにしてほしい。
・ 自信を持って明るく過ごしてほしい。

関係者

・ 自分の意見が言えるようになってほしい。

個別の教育支援計画の目標設定

- ★ 願いや本児の実態を基に、優先順位を考えて設定した。

目標

① 学習への苦手意識を減らす。

② 自分のよいところが分かり自信を持って過ごす。

個別の指導計画

- ★ 学校で取り組むべき内容を考えて設定した。

長期目標

① 1年生の漢字全部と、2年生の漢字の半分程度が読める。

② 自分の得意なことや学校での活動内容をみんなの前で話す。

短期目標1 (1学期)

① 1年生の漢字について、漢字表を使ったり質問をしたりして読み方が分かる。

② 自分で考えて作った作品を教師に説明する。

短期目標2 (2学期)

① 1年生の漢字が読める。2年生の漢字について、漢字表を使ったり質問したりして読み方が分かる。

② 工作などで工夫した点を教師に話したり、小グループの中で発表したりする。

短期目標3 (3学期)

① 1年生の漢字全部と、2年生の漢字の半分程度が読める。

② 工作などで工夫した点を学級全体の前で発表する。

<例3> 知的障害のある中1女子

個別の教育支援計画

実態

- ・身の回りのことは自分でできる。
- ・休み時間は、一人で本を読んで過ごすことが多いが、教師と一緒に友達と遊ぶこともある。
- ・身近な人には自分から話し掛けることがある。

願い

本人

- ・勉強を頑張りたい。
- ・仲良しの友達を作りたい。

保護者

- ・買い物などの生活の力を高めてほしい。
- ・いろいろな人と関わって過ごしてほしい。

関係者

- ・友達や先生と関わって遊べるようになってほしい。

個別の教育支援計画の目標設定
★ 願いや本児の実態を基に、優先順位を考えて設定した。

目標

- ① 地域生活を送る上で必要なスキルを身に付ける。
- ② 友達や近所の人との関わりを広げる。

個別の指導計画

★ 学校で取り組むべき内容を考えて設定した。

長期目標

- ① スーパーを利用して買い物をする。
- ② 友達と関わって、休み時間を過ごす。

短期目標 1 (1学期)

- ① 買い物のマナーや店の人とのやり取りの仕方を身に付ける。
- ② 教師がきっかけを作り、友達に誘われて一緒に休み時間を過ごす。

短期目標 2 (2学期)

- ① 調理の材料などを考えて買い物の計画を立てる。
- ② 友達に誘われて一緒に休み時間を過ごす。

短期目標 3 (3学期)

- ① 決めた材料をスーパーで買うことができる。
- ② 友達を誘って一緒に休み時間を過ごす。

<例4> 気持ちのコントロールや対人関係面での困難さのある高1男子

